

# ナシ「幸水」における肥効調節型肥料施用技術の確立

福島県果樹試験場栽培部  
平成16年度試験研究成績書

## 1 部門名

果樹－ナシ－施肥法  
分類コード 04-03-13000000

## 2 担当者

額田光彦・星 保宜

## 3 要旨

福島市庭坂のナシ「幸水」ほ場において、施肥労力と窒素投入量の削減を目的として肥効調節型肥料を施用し、樹体生育、収量、果実品質および土壤溶液中養分濃度に及ぼす影響を検討した。

供試ほ場の有効土層は60cm以上あり、土壤は礫の多い埴壤土～埴土であった。

- (1) 10a当たりの年間窒素施肥量は、改良区では平成15年、16年ともに24kg(肥効調節型肥料1回施用)であったのに対し、慣行区では平成15年は36kg(5回施用)、平成16年は29.2kg(4回施用)であった。
- (2) 樹体の生育では、新梢長、節間長は改良区が勝っていたが、葉色、葉中無機成分含有率、主幹肥大量、花芽分化率等については有意な差は認められなかった。
- (3) 収量では処理間差は認められなかったが、収穫果の大きさは改良区が勝っていた。果肉中加里含有率は改良区が慣行区より低い値であったが、それ以外の果実品質においては差はみられなかった。
- (4) 深さ80cmの土壤溶液の硝酸態窒素、カルシウムおよびマグネシウム濃度は、改良区が慣行区より低く推移する傾向を示した。

以上のことから、供試ほ場のように有効土層の深い土壤であれば肥効調節型肥料を使うことにより、施肥労力と投入窒素量を削減することができ、慣行施肥と同等以上の樹体生育、収量、果実品質を得ることが可能と思われた。また、土壤養分の溶脱を抑制できると推察された。

## 4 その他の資料等

なし